

■ インターネットIR情報

当社は、株主・投資家の皆さまにタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、ホームページの充実をはかるなど、IR活動の向上に取り組んでいます。

キーウェア IR <http://www.keyware.co.jp/ir/>

■ IR情報

個人投資家の皆さまへ

■ 個人投資家の皆さまへ
より深く当社グループをご理解いただくために個人投資家の皆さまへ向けた情報を発信しております。

■ 決算説明（動画配信）
決算説明の動画を資料とともに配信しております。業績報告や今後の戦略などについてご説明しております。

キーウェアソリューションズ 株式会社

〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18
経営企画部 広報IR室
<http://www.keyware.co.jp>



※掲載されている会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

KEYWARE TIMES

株主通信 Vol.23

第53期 第2四半期(累計) 事業報告
2017年4月1日～2017年9月30日

特集 | 事業紹介 ～当社と社会のつながり～



KEYWARE
SOLUTIONS

キーウェアソリューションズ 株式会社
東証第二部 3799

IT can create it.



既存事業の収益性向上および新規事業創出に努め、持続的な事業の成長と企業価値の向上を目指してまいります

代表取締役社長

三 田 昌 弘

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にあったものの、海外経済の不確実性や地政学リスクの高まりにより、先行き不透明な状況が続きました。情報サービス産業におきましては、企業におけるビジネスの成長を目的としたIT投資が進むなど、市場は緩やかに回復しつつある一方、価格競争は依然として厳しい状況が継続しています。このような状況のもと、当社グループは3か年中期経営計画「中期経営計画2015」の基本方針である「既存事業の収益性向上と安定化」、「ポートフォリオの多様化」、「経営基盤の整備、改革」に基づき取り組みを進めています。既存事業においては、大型請負案件の受注獲得に向けた営業活動および販路拡大に向けた新たなビジネスパートナーとの連携強化を推進しました。併せて、高採算案件への人員のシフトにより採算性向上に努めるとともに、組織横断的なプロジェクト管理を実施することで不採算プロジェクトを抑制し、収益性向上をはかりました。事業ポートフォリオの多様化に向けては、農業ICTや医療・ヘルスケア領域のほか、生産性改善コンサルティングサービス「バーチャルサポートセンター (VSC)※」といった新事業を推進しました。さらに、社員のスキル向上に向けて教育・研修の充実に引き続き取り組んだほか、情報系システムを刷新しコミュニケーションの円滑化をはかるなど、経営基盤の整備、改革に努めました。

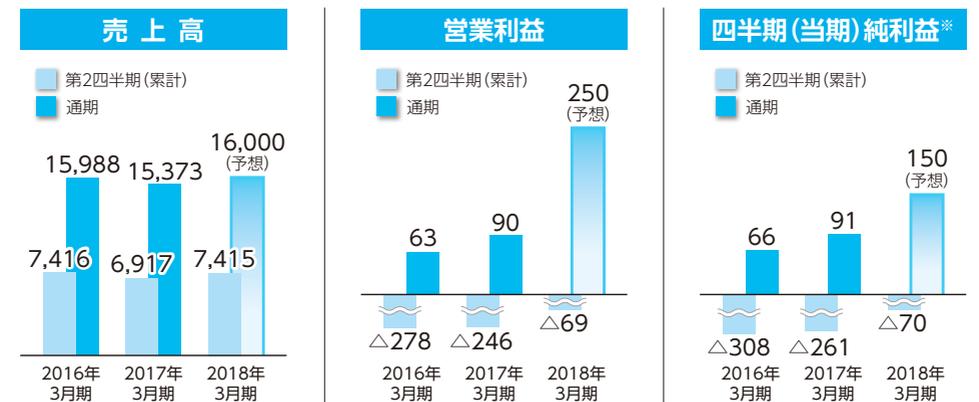
その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高は8,656百万円（前年同期比1,769百万円増、25.7%増）、売上高は7,415百万円（同498百万円増、7.2%増）、営業損失は69百万円（前年同期は246百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は70百万円（前年同期は261百万円の損失）となり、前年同期から大幅に改善しました。

当社グループは、引き続き既存事業の収益性向上および新規事業創出に取り組むとともに、プロジェクトマネジメントの徹底をはかることで持続的な事業の成長と企業価値の向上を目指してまいります。株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※バーチャルサポートセンター (VSC)：営業部門などのホワイトカラーを中心に、低付加価値のものから高付加価値のものへ業務を組み替えていくことで、お客さまの生産性向上を実現させるコンサルティングサービス。

連結業績ハイライト

(単位：百万円、単位未満切り捨て)



※親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益を表記しています。

当社は、社会や暮らしを支えるさまざまな情報システムの構築に携わっています。その一例をご紹介します。

生産性改善 コンサルティング

企業の生産性を短期間で飛躍的に高めるコンサルティングサービス^(注1)を提供しています。

官公庁向け システム開発

各省庁における業務システムを幅広く構築しています。

メディア向け システム開発

ニュースセンター報道支援システムや、報道機器の管理システムを構築しています。

ホテル ソリューション

ホテルの宿泊業務、宴会業務、購買業務などトータルソリューションを提供しています。

通信キャリア事業者向け システム開発

顧客管理、通信料金算出、電話帳掲載情報などのシステムを構築しています。

監視・制御 ソリューション

鉄道や道路、航空などに使用されている機器を監視・制御するソリューションを提供しています。^(注2)

広告管理 ソリューション

鉄道事業者を中心に、広告を販売・管理するソリューションを提供しています。

鉄道事業者向け システム開発

駅の収入管理、ICカード清算管理、設備管理などのシステムを構築しています。

卸・小売業向け システム開発

AI型需要予測機能を持つ発注システム、在庫管理、入在庫管理システムを構築しています。

金融業向け システム開発

金融機関における勘定系・情報系業務システムを構築しています。

医療・ヘルスケア ソリューション

医療機関、国、自治体などに医療・健康管理に関するソリューションを提供しています。

ERP ソリューション

製造業、商社など多様なお客さまへ各種ERPパッケージを活用したソリューションを提供しています。

農業ICT ソリューション

農作物の品質・生産性向上や栽培技能の継承を支援するソリューション^(注3)を提供しています。

注1：生産性改善コンサルティングサービス パーチャルサポートセンター（VSC）を提供しています。
注2：監視・制御ソリューション OpenMonitor（オープンモニター）を提供しています。
注3：農業ICTソリューション OGAL（オーガル）シリーズを提供しています。

>>> Partnership

■ [Biz] Partner AWARD 2017]において、「Excellent Award」を受賞

2017年5月、株式会社NTTデータ・ビズインテグラルが開催した「Biz] Partner AWARD 2017」において「Excellent Award」を受賞しました。「Biz] Partner AWARD」は、Biz]製品*やソリューションの効果的提案・活用により顧客企業のビジネスを推進し、価値あるシステム構築を実現したパートナー企業を表彰するものです。当社は、同社の2016年度Biz]事業に最も大きく貢献した企業として表彰されました。



左：当社 代表取締役社長 三田 昌弘
右：NTTデータ・ビズインテグラル 代表取締役社長 有馬 勲氏(当時)

* [Biz] は、株式会社NTTデータおよび株式会社NTTデータ・ビズインテグラルが提供するERPパッケージです。

>>> Brand-New Business

■ インフォテリア(株)とASTERIAマスターパートナー契約を締結

当社は2017年7月、企業データ連携市場において11年連続国内市場シェアNo.1*1を誇るASTERIAシリーズの一次販売代理店として、開発元のインフォテリア株式会社と「ASTERIAマスターパートナー契約」を締結しました。



クラウドの普及やビッグデータ・AIの台頭により、SoR*2 (情報の蓄積を目的とした基幹系システム) とSoE*3 (顧客接点の強化を目的とした情報系システム) の両システムをシームレスにつなぐデータ連携基盤のニーズが高まっています。当社は、長年培った基幹系システムの構築ノウハウとASTERIA製品を活用することにより、お客さまに最適なソリューションを提供してまいります。

*1 出典：テクノ・システム・リサーチ社「2017年 ソフトウェアマーケティング総覧EAI/ESB市場」

*2 SoR: Systems of Recordの略

*3 SoE: Systems of Engagementの略

「キーウェア・ファミリーデー」を開催

2017年8月、日頃から社員を支えてくれているご家族の皆さんを本社に迎え、「キーウェア・ファミリーデー」を開催しました。当日は、12家族(3歳~12歳のお子さん:17名)が参加。Web会議やQRコードなどのIT技術に触れたり、社員と名刺交換を行ったりしながら、ミッションであるパズルの完成のために、絵のピースを探して社内を探索しました。参加した子どもたちからは「楽しかった」、「また来たい」と笑顔がみられました。

当社では、社員の家族と会社との相互理解を深め、より働きやすい環境整備を目指すため、このイベントを開催しています。今後も家族を大切にできる職場環境づくりに努めてまいります。



知って得する!

ICT時代の活用術16

最近よく耳にするARやVR—両者の違いをご存知ですか?

AR (拡張現実) は、現実の世界にデジタル情報を重ね合わせて表示する技術です。例えば、目の前の風景に合わせて道案内や施設の情報などを表示することができます。

これに対しVR (仮想現実) は、コンピューターによって作られた仮想的な世界を、まるで本当の世界のように体感できる技術です。アニメや映画の世界、宇宙旅行などの疑似体験ができます。

これらの技術は、日常生活・娯楽・教育・医療・ビジネスなど、さまざまな場面で活用が広がっています。



第2四半期(累計)連結財務諸表(要約)

単位：百万円、単位未満切り捨て

四半期連結貸借対照表

| | 前 期 2017年 3月31日現在 | 当第2四半期 2017年 9月30日現在 |
|-----------------|-------------------------|----------------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 5,534 | 5,473 |
| 固定資産 | 3,578 | 3,491 |
| 有形固定資産 | 114 | 110 |
| 無形固定資産 | 790 | 715 |
| 投資その他の資産 | 2,673 | 2,665 |
| 資産合計 | 9,113 | 8,965 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 2,526 | 2,661 |
| 固定負債 | 771 | 547 |
| 負債合計 | 3,297 | 3,209 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 5,792 | 5,735 |
| その他の 包括利益累計額 | 23 | 20 |
| 純資産合計 | 5,816 | 5,756 |
| 負債純資産合計 | 9,113 | 8,965 |

POINT 資産の部

現金および預金、仕掛品の増加はありましたが、受取手形および売掛金、のれんの減少などにより、前期末比147百万円減少の8,965百万円となりました。

POINT 負債の部

短期借入金の増加はありましたが、長期借入金の約定弁済による減少により、前期末比87百万円減少の3,209百万円となりました。

POINT 純資産の部

四半期純損失の計上などにより、前期末比60百万円減少の5,756百万円となりました。
当四半期末の自己資本比率は、64.2%となりました。

四半期連結損益計算書

| | 前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで | 当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで |
|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高 | 6,917 | 7,415 |
| 売上原価 | 5,979 | 6,281 |
| 売上総利益 | 937 | 1,133 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,184 | 1,203 |
| 営業損失(△) | △246 | △69 |
| 経常損失(△) | △246 | △67 |
| 親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) | △261 | △70 |

POINT 売上高

通信系、運輸系の大型案件、ERP系の新規案件獲得、官庁系の案件拡大などにより前年同期比498百万円増加の7,415百万円となりました。

POINT 営業損益

売上高の増加およびプロジェクト管理の徹底などによる売上総利益率の改善に努めた結果、前年同期比177百万円的大幅改善となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

| | 前第2四半期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで | 当第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで |
|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 1,681 | 259 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △23 | △40 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △1,077 | △35 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | 579 | 182 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 885 | 1,156 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | 1,464 | 1,339 |

POINT 連結キャッシュ・フロー

営業CFは、売上債権の減少などにより259百万円のプラス、投資CFは、関係会社株式の取得などにより40百万円のマイナス、財務CFは、長期借入金の返済などにより35百万円のマイナスとなり、その結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前期末より182百万円増加の1,339百万円となりました。

株式情報

(2017年9月30日現在)

Stock Information

株式情報

発行可能株式総数 36,440,000株
 発行済株式総数 9,110,000株
 株主数 3,106名

●主要法人株主

日本電気株式会社
住友生命保険相互会社

株式会社JR東日本情報システム
株式会社三井住友銀行

株主メモ

| | |
|----------------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会、期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 |
| 株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 【郵便物送付先】 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 【電話照会先】 | (フリーダイヤル)0120-782-031 |
| 【インターネット ホームページ URL】 | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |
| 公告掲載方法 | 当社ホームページにおける電子公告 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第二部 |

株式に関するお手続き

- 住所変更等のお届出およびご照会について
お取引の証券会社にお問い合わせください。証券会社の口座のご利用がない株主様は上記の三井住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。
- 未払配当金のお受取りについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申出ください。

会社概要

(2017年9月30日現在)

Corporate Data

会社概要

| | |
|------|---|
| 商号 | キーウェアソリューションズ株式会社 |
| 住所 | 〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18 |
| 創立 | 1965年5月 |
| 資本金 | 17億37百万円 |
| 売上 | 153億73百万円(2017年3月期・連結) |
| 従業員数 | 1,078名(2017年3月31日現在・連結) |
| 取得資格 | 品質マネジメントシステム登録事業者 プライバシーマーク使用許諾事業者 情報セキュリティマネジメントシステム登録事業者 環境マネジメントシステム登録事業者 |

役員

| | | | |
|---------|---------------------|-----|------------------------|
| 代表取締役会長 | むら 村 上 優 | 監査役 | しま 島 田 孝 雄 |
| 代表取締役社長 | み た ま さ ひろ 三 田 昌 弘 | 監査役 | たき た ひろし 瀧 田 博 |
| 取締役 | あら かわ しん いち 荒 河 信 一 | 監査役 | おか ざき しん じろう 岡 崎 伸 二 郎 |
| 取締役 | たか お せい いち 高 尾 誠 一 | | |
| 取締役 | さわ だ のぶ ゆき 澤 田 伸 行 | | |
| 取締役 | おか だ かつ とし 岡 田 勝 利 | | |
| 取締役 | たか の いさお 高 野 功 | | |

- ※取締役 岡田 勝利および高野 功は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
- ※監査役 瀧田 博および岡崎 伸二郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
- ※取締役 岡田 勝利および監査役 瀧田 博は、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員です。